

たわやがトカラ情報

発行元 十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771
E-mail toshima-ky@tokara.jp

心に残る先生

中之島小・中学校長 肥後 雅孝

「十島七島の心は一つ」という思いは、十島村に住んでいる島民や村出身者の皆が心に抱いていることだと思います。十島村に赴任した教職員も同じ思いであると思いますが、七島の子どもたちが一緒になって活動する機会は、集団宿泊学習、中連体、修学旅行など、数少ない現状にあります。

このような状況にあって、私は、十島村のA校のS教諭の素晴らしい言葉を耳にし、感動を覚えました。

平成23年7月26日(火)に鹿児島県中学校総合体育大会のバドミントン大会が桜島の体育館で開催され、中之島中学校からも中学3年の伊東明香さんが、個人戦に参加するというので、私も応援に駆けつけました。大きな学校の大人数に負けじと中之島の少人数の応援団で声援をおくる中、A校のS教諭による伊東明香さんへの大きな声援が耳に響いてきました。A校からも2名の生徒が参加しS教諭も引率で来られていたのです。少ない人数ではありましたが声援の後押しもあり伊東明香さんは1勝することができ、次の日に備えることになったのですが、S教諭の学校の生徒は善戦はしましたが、負けてしまい、S教諭ともその日は「お疲れさまでした」と言葉を交わし、会場を後にしました。

次の日、同じ会場での試合に応援に駆けつけますと、なんとS教諭の姿があったのです。A校の生徒は昨日の試合で負けているのにどうしたのだろうと不思議になり、思わず私は、「何をしに来たのですか」と尋ねました。「伊東明香さんは、同じ十島村の大切な子どもですから、応援に来るのはあたりまえです」という返答が素直に出てきて、その言葉が私の頭の中で2回・3回ほど繰り返されました。「同じ十島村の大切な子どもですから、応援に来るのはあたりまえです」という言葉は、本心から思っていないと、また、日頃からそのような気持ちで教育に携わっていないと咄嗟に口から出てくるものではないと思います。

全国的に、自分の私生活が優先でサラリーマン化していると言われる教職員の実態が増えている現状にあって、幸いにして、十島村七島の学校に赴任された教職員は地元に住むことにより、学校生活や地域の中において子どもたちとのつながりも強く、絆が深まっていくことになります。各島で子どもたちとの絆を深めていくことが、子どもたちへの愛情を深めることになり、その愛情が、十島村全体の子どもたちへの愛情へとつながり「同じ十島村の大切な子どもですから」と、自然体で口にてでくるのではないかと、思うのです。

S教諭からの一言から、教師としての素晴らしさ、十島村の素晴らしさをあらためて考えさせられました。校長として、子どもたちとの触れ合いを大切にしていくことが、目指す学校経営へ向けても重要であることをS教諭の言葉から再認識することでした。

< 11月号から校長先生方の随想で巻頭を飾らせていただいています。 >

【 入賞おめでとうございます 】

- | | | | |
|---------------------|-----|---------------------|-----------------|
| 第62回県図画作品展 | 入選 | ・小林ひかる(中之島小2年) | ・刈谷飛秋(小宝島分校中3年) |
| 第54回県児童生徒作文コンクール | 入選 | ・平田一華(宝島小1年) | |
| 第13回南九州市かわなべ青の俳句大会 | 入選 | ・小林莉衣奈(小宝島中2年) | |
| | | 「もぎたてのトマトのほほをつたうつゆ」 | |
| | 佳作 | ・羽生伊織(中之島小3年) | ・飯田陽菜(宝島小5年) |
| 第59回理科研究記録展 | 入選 | ・西いつき(悪石島小5年) | |
| 平成23年度明るい選挙啓発標語 | 優秀賞 | ・原愛美(諏訪之瀬島分校中3年) | |
| 第55回JA共済小中学生書道コンクール | 佳作 | ・羽生偉琉(中之島小1年) | |

【 第2回村定例教育委員会開催 】

第2回村定例教育委員会は、当初12月19日(月)に役場会議室で開催する予定でしたが、船便延期のため、同日テレビ会議システムにより行われました。特に大きな議案は、「十島村教育長選任について」でした。

審議の結果、全会一致で、原口英典教育委員が教育長に選任されました。その他、教育総務課に教育総務室を設けるなどの規則の改正等も行われました。

「一隅を照らす」十島の教育

教育長 原口 英典



去年今年貫く棒のごときもの(虚子)

とりわけ昨年は、とてつもない痛みを覚えつつ、呼吸をしている自然と、そこに生活の基盤を置かせてもらっている私たち人間の深いつながりを、否応なく思い知らされました。

しかしながら、自然は、今日も何事もなかったかのごとく時を刻み、2012年(平成24年)という年も、去年からのタスキを引き継ぎ、その一步を踏み出しました。今ここに生きる私たちも、無意図的・無意識的一步にとどまらず、意図的・意識的一步を断絶することなく、貫く棒のごとく、人として歩み始めました。

私自身も、昨年、十島村の一少女が地元新聞の投稿欄に投書した内容に心打たれ、その学校に電話と葉書を発信したことに、今回の縁の芽生えを得、それが途切れることなくつながってきたように思います。一少女のすてきな生き方への「関心」が、縁をつないでくれたのでしょうか。誠実に生きようとしている人・生きている人の「生き方」にこそ、これからも自分の関心を寄せる生き方を貫いていけたらと願っています。

ところで、すべては「一」に端を発するのかもしれませんが、私は、「一燈照隅」(我が一燈でもって一隅を照らす生き方)という言葉が好きです。一つの灯りはたとえ小なりといえども、確実に足下を照らす光となって、闇や迷いにも似た人生行路(道)に方向性を与えてくれます。私たち教育に携わる者は、子どものいのちを預かり、その子らの人格の完成をめざす仕事に携わらせていただいておりますが、その立場は実は、選ばれても在るのだという自覚に立つことが原点と思われまふ。我が一燈で子どもの心に灯をともし努力と、ともし続ける情熱は、何にもまして教育者魂として大切にしたいものであります。

一燈照隅の精神は、我が十島村の教育に当たっては、一燈をもって一島、一島の島々を照らす一人一人の生き方に通じるものであります。島に生まれ、島に生き、島に働くことを誇りとする生き方の一燈を、これから生き抜くための火種にもするべく、ともに燃えたいものであります。島々の学校を我が生活の基盤として、日々汗を流し、時に涙し、また、子どもとともに学びあえることに喜びを味わいつつも、教えることの苦悩も伴いつつ頑張っている皆さんに敬意を表します。

最後にスティーブ・ジョブズ氏のことばを借りるなら、Stay hungry, Stay foolish に倣って、我が十島村にあっては、Stay local, Stay global ということばを軸に据えたいとも考えます。

この精神で、目の前の子どもたちに対し、ともに働く仲間たちに対し、とりわけ自分に対し、今年も謙虚さを根っこに据え、己の一燈をもってして、「教えるとは希望を語ること 学ぶとは誠実を胸に刻むこと」(ルイ・アラゴン)という「一隅を照らす」十島の教育を追究したいものであります。

【 齊脇 司教育長退任のご挨拶 】



12月議会を以って十島村教育委員会教育長を退任することになりました。在任中の2期8年という長い任期中は、公私共に温かいご厚情を賜り、心から厚くお礼を申し上げます。お陰様で無事に重責を全うできたものと、心から感謝している処です。

ご案内のように本村教育委員会は、隣の三島村と同じく地元が存在しない全国的にも珍しい自治体です。その為教育長として現場に急行できない現実、時として焦りを伴うこともありました。即応性という教育行政上の重要な機能の一部分が損なわれる恐れがあり、隔靴搔痒の観が無きにしも非ずという状態もありましたが、現地の校長先生のご協力で乗り切ることができたと思うことです。感謝する所以の一つです。

県教育委員会や鹿児島教育事務所のご指導やご協力も大きいものであります。指導主事のいない本村教育委員会でしたので、最初の6年間は、県直轄という利点(?)を活かして教職員の人事異動や学校訪問、村教研等で講師派遣等にだけお世話になったことか、筆舌に尽くせない感謝を感じています。

島存続の為に児童生徒数の確保は、本村にとって喫緊の課題であると共に教育委員会にとっても最大の課題でした。山海留学制度の推進と里親の確保には、地域集落の方々にとだけお世話になったことか、また我が子連れでの離島赴任の先生方にも人知れず感謝の意を示すことでした。

財政面で本村教育の充実に大きな力を頂いた村当局並びに、いつも叱咤激励と元気を頂いた本村議会議員の方々にも、この場を借りて感謝の意を表したいと思います。

出迎えや見送りの際に、トカラの人情を乗せた太鼓の演奏やエイサーの踊りは、島興しに一役買っている児童生徒の意気込みを感じさせました。突堤の先まで走って別れを惜しむ児童生徒や先生方、地元住民の顔を思い出すたびに涙腺が緩みます。

感謝で去ることのできる幸せを噛み締めながら、退任のご挨拶とさせていただきます。鹿児島郡十島村の8年間、誠にありがとうございました。

【 JAからクリスマスプレゼント 】

12月16日(金)に、今年もJAグリーンがごしまから村内全児童生徒に学用品等が贈呈されました。